

平成31年度



# 白川小だより

第4号

令和元年6月27日(木)

## 「好奇心」をくすぐる ～「なんだろう。なぜだろう。ふしぎだな。」～

校長 奥村 哲也

「分かったよ。あの蛾は『オオミズアオ』っていうんだよ。」と子どもたちが駆け寄ってきて教えてくれました。先日の全校朝会で、玄関前で見つけた大きな蛾の写真を紹介したところ、早速、図鑑で調べてくれたようです。

全校朝会では、「何かおもしろいものを見つけたら教えてね。」と言葉を添えました。すると、子ども達から、様々な報告が届きました。

「あのね。アオムシ飼ってるんだけど、小さいのいっぱいウンチするんだよ。」「トマトがね、丸くなってきたよ。トマトなのに緑色なんだよ。」「見て見て。おもしろい模様の蛾を見つけたよ。」「ツバメがね、巣を作ってるよ。何かをくっつけてる。」「水やりしたよ。朝顔は、わたしの背より高いよ。どこまでのびるのかな。」



児童生徒の優れた科学作品をまとめた冊子『科学の芽』の最新号に、昨年度の卒業生の研究が紹介されています。その卒業生は、昨年夏休みに「蚊」の研究に取り組み、県の優秀賞を受賞しました。「蚊はどうして刺すのだろうか」と疑問に思った2年生の時から研究を始め、6年生となった昨年は、「かゆみの原因となる蚊の唾液はどれくらいあるのか」について調べました。その結果、「1匹の蚊は、10秒×10回分のマスイ液（唾液）を持っている」ことを突き止めました。一般的には疎ましい存在である「蚊」に好奇心を抱いたことが、すばらしい研究を生みました。

来年度より実施となる「新学習指導要領」のキーワードの一つに「主体的な学び」があります。「主体的な学び」には、好奇心が欠かせません。「なんだろう。なぜだろう。ふしぎだな。」という好奇心が、「調べてみよう。考えてみよう。試してみよう。」という主体的な学びにつながるからです。また、「好奇心がくすぐられた時には脳が活性化し、普段より学習効果が高まる」との研究報告もあります。

毎日の生活や授業の中で「好奇心」をいっぱいくすぐりたいと思います。ご家庭でも、是非、たくさんの「なんだろう。なぜだろう。おもしろいな。」をお子さんと一緒にみつけてみてください。